図書だより

令和８年２月
網干高等学校図書館

2 月になりました。毎日寒い日が続いていますが、陽ざしには少しだけ春のあたたかさを感じます。3 年生が自由登校となり、いよいよ 1 学年だけの学校生活となりました。学校全体が、少し静かになったような気がしますが、2 年生の皆で活気のある校舎にしていって欲しいなと思います。最終学年への準備の時間、学年末考査はもちろんのこと、部活に、探究に、地域共創プロジェクトに、今年度を後悔の残らぬよう締めていきましょう！本も読んでね！！

今月は 800 番代の本を紹介します！

◆ 今月は 8 類の本を紹介します ◆

800 番代は「言語」に関する本が分類されています。最初に私たちが使う日本語に関する本、次にアジアの言葉、英語、ヨーロッパ各国の言語と続きます。漢字や方言、文章を書くことなどの本もここにあります。「ことば」に関することを知りたい時は、８から始まる分類を探してみましょう。

『10 代からの文章レッスン　みんなどうやって書いてるの？』（816）

感じたことを文章にするのは、簡単そうに見えて思うようにできません。文章を書くことで活躍をしている 15 人が、文章を書くための工夫やヒント、そして楽しさを伝えます。「816」という分類には文章を書くことについての本があります。AI に頼らず、自分の言葉で文章を書けるようになりたいですね。

『かんさい絵ことば辞典』（818）

方言に関する本も「言語」の分類です。関西弁についてかかれたとてもかわいいイラストの本です。関西弁とひとことで言っても大阪と京都と兵庫（神戸）で違います。私たちが使っているのは「播州弁」かな？　同じ関西でもこんなに違うって事がわかって楽しい本です。

『マンガでおぼえる敬語』（815）

敬語をちゃんと使えますか？進学や就職の面接試験の時、アルバイトをした時、仕事をし始めた時、「敬語」がちゃんと使えるかどうかで、その人の印象が変わってきます。

敬語についての本だけではなく、ここには日本語の文法や語法についての本があります。

『中高生のための文章読本』（817）

短い時間で読み切れる文章を収録したこの本は、どのように文章を読んだらいいのかを教えてくれます。読書案内やコラムも掲載されているので、読書の手引きとしても充実した内容です。小説以外の文章の読み方の手引きになります。

『今日からはじめる!マンガでわかる韓国語』（829）

820 番代はアジアの国の言語についての本が並んでいます。829 には韓国語の本。この頃、ドラマや音楽にも韓国語の作品がたくさんあります。言葉がわかればドラマや音楽ももっと楽しめるかもしれないですね。

『世界をちょっとよくするために知っておきたい英語 100』（834）

まだ日本語に訳しきれていない言葉の意味とその背景を学ぶ一冊です。これからの世界を考えていくための最新の英語の単語で世界の事がわかります。

830～は英語の本です。英検の問題集もありますよ。

★今月の新しい本★

今年度は PTA のご支援でたくさんの新しい本が図書室に入ってきました。

今年度最後に入った新刊 2 冊を紹介します。どちらも話題の 2 冊です。

★ **『変な地図』（雨穴）**

『変な～』シリーズの最新刊。今度は地図ミステリー。どんな謎が隠されているのか…！

★ **『烏に単は似合わない』（阿部　）**

4 月から1年間、図書室(館)の本についている背表紙の下の方についている背ラベルの番号について紹介してきました。これから、大学や市の図書館で本を探す時に思い出してくださいね！

最後は 900 番代です！

900 から始まる分類は、「文学」です。図書館の中で一番本の数が多いのも 900 から始まる本です。私たちがよく読む小説も、授業でおなじみの源氏物語などの古典も、俳句や短歌、詩も全部文学です。また、文学に関する評論や解説、小説家の研究書なども 9 類の最初に位置しています。もちろん、日本の文学だけではなく、各国の小説もあります。

『宮沢賢治のオノマトペ』 『名所旧跡でぐぐっとわかる日本文学』 （910 文学研究）

文学作品や著者についての**評論や研究**した本などが 9 分類の最初にあります。例えば、ここに紹介するのは、宮沢賢治の作品に出てくるオノマトペについての本や、日本文学の場所と作品の関係を紹介した本などです。

『俳句ミーツ短歌』 『依りかからず』（911 俳句・短歌・詩）

句集や歌集、詩集をはじめ、それぞれについての解説や書き方の本などもあります。短い時間で読めて、心にすっと響く言葉の世界を味わってほしいなと思います。紹介したのは、短歌と俳句の解説の本と茨木のり子さんの詩集です。

エッセイいろいろあります！（914.6 随筆・エッセイ）

随筆とは、筆者が感じたことや考えたことを、形式にとらわれずに自由に書き記した文章です。古くは清少納言の「枕草子」も今風に言えばエッセイです。共感したり、学んだり、ハッと気づいたり…。又吉直樹さんや、星野道夫さんなどがエッセイストとして有名です。

ノンフィクション（916）と紀行文（915）

随筆と違うところは、著者の経験したことを体験記として書かれている本が 916 と 915 に分類されます。**闘病記、戦争の記録**などは 916、**旅行記や日記**は 915 と分かれています。皆におすすめしたいのは**沢木耕太郎さんの「深夜特急」**です。そのほか、**五十嵐大**さんの耳の不自由な家族とのことを綴った本もあります。

日本の小説(913.6)

日本の小説は、ハードカバーと文庫本とに分けて置いてあります。どちらの棚も、著者のあいうえお順に並んでいます。図書館などに行くと、913.6 という数字表記ではなく「F」(フィクションの F)という表示になっている場合もあります。

古典文学(913)

古典は、時代は違うけれど「小説」なので、背のラベルの数字は「913」です。網干高校図書室では、古典はまとめて置いています。原文、現代語訳などいろいろあります。

アジアの文学（920～）

近年、韓国文学が脚光を浴びています。『アーモンド』をはじめとする、韓国でのヒットした小説や BTS おすすめの本などが図書室にあります。

英米文学(930～)

アメリカとイギリスの作家の本が 930 からの分類に並んでいます。ここに紹介したのは、『スタンド・バイ・ミー』というスティーブン・キングのミステリーです。その他『赤毛のアン』のシリーズも全巻揃っています。

ドイツ文学(940～) フランス文学(950～)

ドイツやフランスの小説は、少々なじみが薄く、とっつきにくいかもしれませんが、名作もたくさんあります。『星の王子さま』(フランス)やカフカの『変身』『モモ』などにも挑戦してみてね。

その他の言語

ドイツ、フランスのあとは、北欧、イタリア、スペインなどの言葉で書かれた小説が置かれています。ここに紹介した『ムーミン』のシリーズをおすすめします。キャラクターとしてのムーミンは知っていても、本は読んだことがないという人、手に取って見て欲しいな～。わかりやすいけど、奥深い世界が繰り広げられます。